

都市計畫ニ就テ (第五卷第五號所載)

准員 工學士 宮 本 武 之 輔

一 緒 言

近代文明ノ最モ著シキ特徴ノ一ハ都市ノ膨脹ナリ統計ノ示ストコロニ據レハ都市ニ於ケル人口ハ田園ノソレニ比シテ遙カニ急速ナル増加率ヲ表ハス之レ明カニ人口ノ都市集中ヲ立證スルモノトス

歴史的由緒又ハ自然的環境ニ依リテ都市ヲ區別スルトキハ宗教都市、政治都市、商業都市、工業都市又ハ軌近ノ發達ニカ、ル田園都市ノ如キヲ擧クルコトヲ得ヘシト雖モ一般都市住民ノ安寧ヲ維持シ福利ヲ増進センカタメニハ其ノ未タ甚タシク亂雜無秩序ニ膨脹セサル事前ニ於テ一貫セル計畫ノモトニ合法的ナル施設ヲ加ヘサル可ラス是レカ基準タル可キ法令ノ制定ヲ漸ク今日ニ於テ見ルカ如キハ寧ロ其ノ晚キニ失スルヲ憾マスンハアラス

山田博愛氏都市計畫法並ニ市街地建築物法ヲ紹介セラレテ逐條東京市區改正ノ在來法規ト比較對照セシメ進ンテ我國六大都市ニ於ケル都市計畫ノ一般的方策ヲ論セラル、ニ方リテ内外各都市ニ亘リ有益ナル種々ノ統計ヲ示シ以テ一般技術家ノ思索ト研究トニ便セラレタルニ對シテ記者ハ多大ノ敬意ヲ表シテ其ノ勞ヲ謝ス

此ノ機ニ際シ平素研究ノ結果ヲ披瀝シテ示教ヲ著者ニ求メントスルカ如キハ固ヨリ淺學ナル記者ノ能ク任トスルトコロニアラス殊ニ事項ノ一般論ニ止マリ未タ具體化セラレサルモノニ對シテハ妄リニ討議スルノ時期ニアラサルヲ認ム

以下記ストコロハ特ニ東京市ニ於ケル都市計畫的施設ニ關シテ私カニ記者カ抱懷スル二三ノ卑見ナリ若シ幸ニシテ著者

ノ一顧ヲ買ヒ得タランニハ記者ノ願ハ足ル

## 二 道路

街路系統ニ關シテハ、うんなんノ如ク放射線ト圓環線トヲ併用セルモノトわしんとんノ如ク格子形ニ對角線ヲ挿入セルモノトノ間ノ優劣ニ關シテ猶研究ノ餘地アルカ如シト雖モ著者モ亦指摘セラレタルカ如ク東京市ノ如ク既ニ不規則ナカラ圓環式街路系統ノ下ニ發達シタル都市ニ對シテハ該系統ニ準據シ將來ノ膨脹ニ對シテ適當ナル放射線ヲ選定スルノ得策ナルヲ認メスンハアラス

市街面積ニ對スル道路面積ノ百分率ハ我國六大都市中東京市ヲ以テ最高トナセト其ノ東京市スラ僅カニ一一%ヲ算スルニ過キスシテ歐米各都市ト比肩セシムヘクモアラス而モ東京市ノ道路タルヤ幅員六間以上ノモノハ道路總延長ノ二六%ニスキサルカ故ニ路線ノ新設ト幅員ノ擴張トハ運輸交通並ニ保健上忽カセニスヘカラサル問題ニ屬ス

著者ハわしんとん市カ格子形街路系統中ニ對角線ヲ挿入セルカタメ其ノ交叉點ニ多ク不規則ナル地面ヲ殘セルコトヲ例示セラレタレト街路ノ交叉點ニ於ケル斯ノ如キ地面ハ或ル場合ニ於テ寧ロ必要トセラル、コトアルヘシ例ヘハ電車自動車其ノ他車馬ノ通過頻繁ナル十字路ノ如キハ充分ノ餘地ヲ存セシメテ小規模ノ遊園ノ態ヲ備ヘシムルヲ以テ交通ノ圓滑及ヒ災害防止ノ第一要件トスヘシ殊ニ須田町交叉點ノ如ク面積狹小ナルカタメニ行路ノ危險甚カラサル地點ヲ擇ヒテ銅像ヲ建設セルカ如キハ一大錯誤ナリトス次ニ路面破壞ノ慘狀ハ電車混雜ノ暴狀ト共ニ見遁シカタキ帝都ノ恥辱ナリ適當ナル財源ヲ求メテ之カ改良ヲ斷行スルハ刻下ノ急務ニシテ何人モ異論アル可ラス曩ニ東京市カ路面改良ノ利益ヲ數字的ニ列舉セルカ如キハ寧ロ閑人ノ蛇足ノミ

## 三 運河

東京市内ニ於ケル河川及ヒ運河總延長ハ四萬九千三百三十間其ノ總水面積ハ百二十五萬九千七百坪ニ達セリ而シテ東京市ト隣接町村乃至近縣トノ水運ハ隅田川中川及ヒ此ノ兩者ヲ連絡スル豎川小名木川更ニ中川ト江戸川トヲ連絡スル新川

等ノ數河川ニ依ルモノヲ主位トス

荒川改修工事ノ結果ハ新隅田川及ヒ舊中川ヲ化シテ二大運河トナス可キカ故ニ將來目黒川ノ改修ト俟テ中川暨川小名木川目黒川ノ沿岸ハ大東京區域ニ於ケル工業地トシテノ發達ヲ繼續スヘキヤ必セリ

唯暨川小名木川ハ固ヨリ本所深川區内ニ於ケル其他ノ運河ハ兩岸ノ標高低キカ爲メ水面ヨリ橋梁下端ニ至ル高サ不充分ニシテ滿潮時ニ際シテハ船舶ノ航行ヲ不可能ナラシムルコト少カラス例ヘハ新川ニ架セル三角橋(拱橋)ノ拱下端ハ A. P. 16.47 尺ナント小名木川ニ架セル高橋(拱橋)ハ其ノ拱下端ノ高サ A. P. 14.60 尺ニシテ新高橋(桁橋)ノ如キ其ノ桁下端僅カリ A. P. 13.70 尺ニ過キス而シテ東京灣(靈岸島)平均滿潮位ハ A. P. 3.23 尺ニシテ小名木川沿岸ニ於ケル滿潮位 A. P. 8.00 尺ニ達スルコト渺カラサルカ故ニ前記ノ橋梁カ如何ニ舟運ヲ妨クヘキカヲ察スルニ足ル現存若シクハ新設セラルヘキ運河ヲシテ充分ノ輸送能力ヲ發揮セシメンカ爲メニ之ニ架設ス可キ橋梁ヲ如何ニ建造スヘキカハ慎重ナル討究ヲ要ス可キ問題ナリトス

#### 四 軌道

著者カ第九表ニ掲ケタル東京市路面電車調ハ調査ノ年月ヲ明記セサルカ故ニ計數トシテハ不明瞭ノ嫌アリト雖モ大正七年一月現在ニ於ケル市營電氣軌道延長一六五哩之ニ未設特許線七三哩ヲ加フルトキハ二三八哩ニ達スヘキハ本會及ヒ帝國鐵道協會ノ調査ニ依リテ明カナリ然レトモ都市ノ住民カ是等ノ交通機關ヲ利用スル程度如何ヲ考慮スルコトナクシテ人口及ヒ面積對軌道ノ關係ニ付キテ歐米各都市トノ比較ヲ試ムルハ未タ妥當ト稱シ難シ

- 惟フニ軌道乗客ノ増加ハ次ノ諸原因ニ由ル者多カル可シ
- (1) 線路ノ延長ニ因ル自然的増加
  - (2) 都市ノ發展ト共ニ住宅地トシテノ郊外ノ膨脹發達
  - (3) 經濟界ノ好況ニ伴フ電車利用者ノ増加

現ニ新宿線大塚線巢鴨線ノ電車カ朝夕全ク反對ノ方向ニ乘客ノ滿員ヲ見ルハ明カニ(2)ノ原因ニ由ルモノニシテ將來斯ノ如キ現象益々著シカルヘキハ之ヲ察スルニ難カラス

要スルニ路面軌道利用者ノ激増ハ現今東京市電車乘客ノ大混亂ヲ誘致シ刻々トシテ文明的社會生活ノ要求ヲ德義上衛生上風儀上ニ裏切リツ、アリ而シテ之ヲ緩和救済スルタメニハ未成線ノ完成新線ノ敷設其他消極的ナル一、三ノ施設アル可シト雖モ高速鐵道網ノ完成ヲ俟ツニ非スンハ到底充分ノ效果ヲ收メ難キハ敢テ記者ノ指摘スルヲ要セサルヘシ

現在東京市及ヒ近郊ニ於ケル高速鐵道ハ鐵道院ノ山ノ手線中央線及ヒ東海道線ニ屬スル電車線ニシテ帝都ヲ環狀ニ包圍スルニ止マリ未タ之ヲ貫通スル放射線ヲ形成セサルカ故ニ殆ント市内電車ト相扶翼スルノ實ニ乏シク各獨立セル交通機關タルノ觀アリ

高速鐵道網ノ選定ニアタリテハ極メテ慎重ナル調査研究ヲ必要トスヘク著者カ選定セラレタル路線ノ外大塚萬世橋線又ハ巢鴨水道橋線ノ如キハ他線ニ比シテ遜色ナキ重要ナル路線ナル可シト思惟ス (完)